

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	LEOPARD		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 2日		～ 令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36名	(回答者数) 24名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 2日		～ 令和8年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 5月 19日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間が、子どもにわかりやすく構造化された環境になっている。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている。	部屋ごとに活動の目的を明確にし、活動場所に移動することで気持ちを切り替えやすくしている。何をやる場所が視覚的にわかりやすく示している。	様々な特性をもった利用児が使いやすいよう、ロッカーの使い方を工夫する。
2	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されている。	夏祭りやクリスマス会などの季節行事、季節感を取り入れた制作活動、夏季のプール遊びなど、年間を通して季節感を取り入れた活動を実施している。 週毎に様々なテーマで集団SSTに取り組んでいる。	利用児や保護者のニーズを聞き取り、活動に反映される。
3	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われている。	就学に向けての座談会を開催し、小学校の支援について学び合える場を設けている。 保護者同士が交流できる機会があり、近い立場で情報共有や共感し合える場となっている。	平日に開催している座談会を土曜日にも実施するなど、保護者がより参加しやすい実施方法を取り入れる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域での子どもと活動する機会が少ない。	保育所や認定こども園、幼稚園等に通いながら当事業所を利用するため、交流自体のニーズが低い。	利用者や保護者のニーズを把握し、交流の機会を検討する。
2	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているが、あまり認知されていない。	毎年の自己評価の結果や、イベント案内をホームページで発信しているが、認知度が低い。お知らせのプリントを配布しているので、ホームページを確認する必然性が低い。	ホームページを活用する機会を増やし、認知度を上げる。
3	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているが、保護者との共有が不十分。	年2回、全員が避難訓練に参加しているが、連絡ノートで活動内容をお知らせするのみで、詳細が伝わりにくい。	年間計画であらかじめ設定しているので、保護者に周知する。避難訓練の後に、各利用児の課題などを面談で個別にお伝えする。